

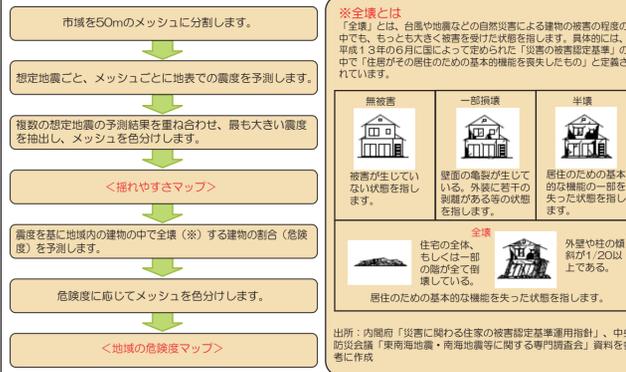
君津市 地震ハザードマップ (君津地区)

近年全国各地で、規模の大きな地震災害が多発しています。大地震から生命、財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。君津市では、市周辺で発生する恐れがある地震を想定し、震度を示した「揺れやすさマップ」と、建物被害を相対的に示した「地域の危険度マップ」を作成し、地震対策に関する情報を記載した「君津市 地震ハザードマップ」を作成しました。このマップから揺れやすさや危険度を確認し、ご家族の皆さんや地域の皆さんとともに、お住まいや職場等での地震対策を推進してください。

平成20年3月

君津市

1 このマップができるまで



2 地震はなぜ起こるのか

- 海溝型地震と直下型（内陸型）地震
日本でおきる地震には、大きく分けて2つのタイプ（海溝型地震、直下型（内陸型）地震）があり、地震をひきおこすメカニズムは、全く異なります。
- 海溝型地震
地球をおおっている10枚程度の岩盤（プレート）のうち、日本列島には太平洋プレートが年約9cm、フィリピン海プレートが年約3cmで沈み込んでいます。この海のプレートが沈みこむ際に陸のプレートの端が巻き込まれ、やがて、陸のプレートの端は反発してはね上がり、巨大な地震を起こします。この地震を海溝型地震と呼びます。
- 直下型（内陸型）地震
海のプレートの動きによって、陸のプレートが圧縮され、内陸部の岩盤に歪みが生じます。この歪みが大きくなると、内陸部の地中にあるプレート内部の弱い部分で破壊が起き、地震となります。規模は、海溝型の巨大地震に比べると小さいですが、局地的に激震をもたらします。この地震を直下型（内陸型）地震と呼びます。
- 震度
「震度」とは、地表で感じる揺れの強さを、気象庁や各自治体の観測点で、計測装置により観測して発表されるものです。
- マグニチュード（M）
「マグニチュード」(Magnitude) は、地震の規模そのものを表す尺度で、頭文字をとってMOO(数値)と表現する。マグニチュードが1上がるごとに、地震のエネルギーは約30倍になります。

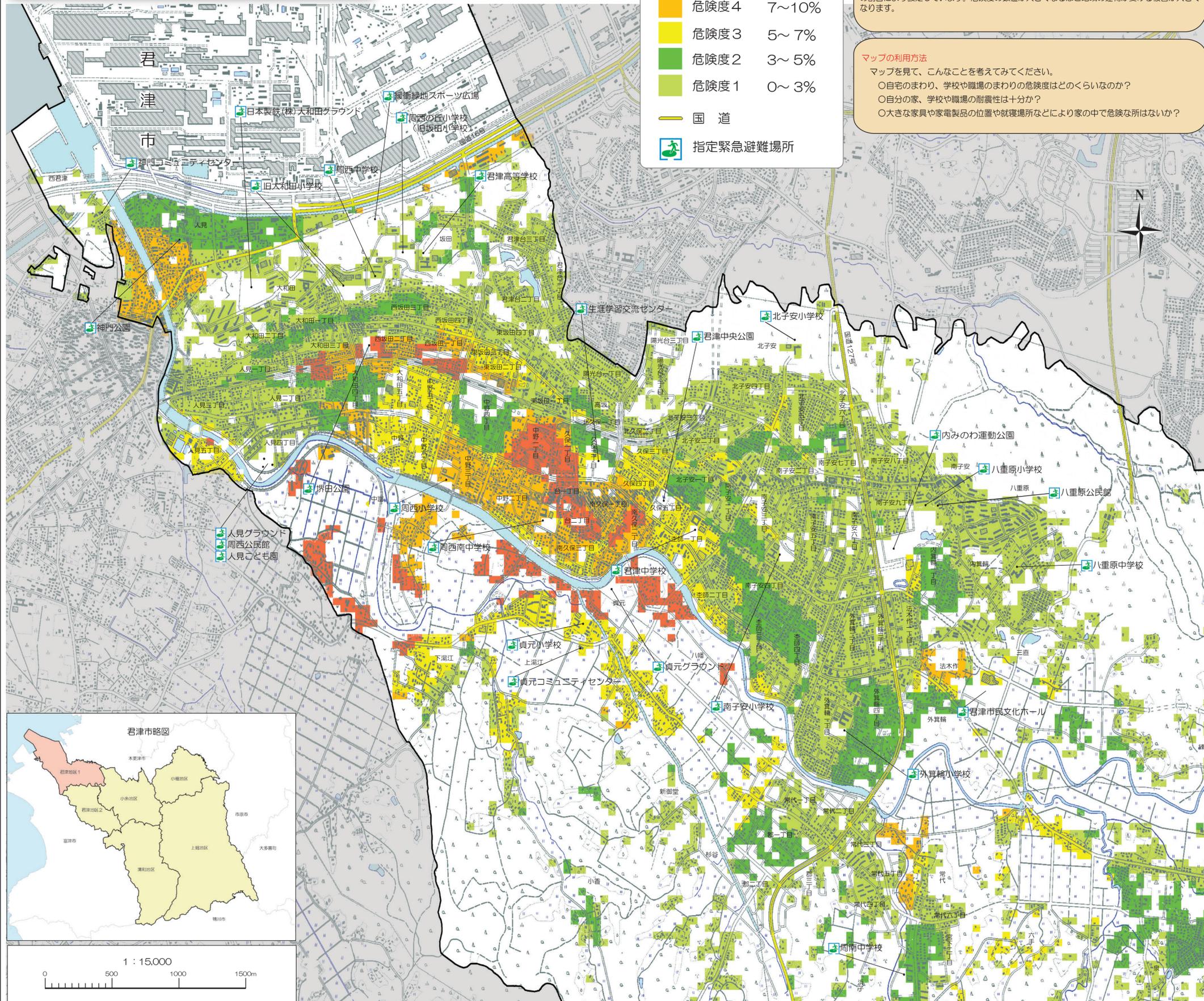
3 想定される地震

君津市に大きな影響を及ぼすと考えられる地震として次の地震を想定しました。

- 元禄地震（マグニチュード8.2）の再来
- 全国各地でも起こりうる直下の地震（マグニチュード6.9）

これまでの調査から、君津市に最も大きな影響を及ぼす地震として、相模トラフ上の断層運動である元禄地震（マグニチュード8.2）を想定しました。図の赤線や赤破線で囲まれた範囲は想定する断層面を表しています。これは別にマグニチュード6クラスの地震では、地震の断層が地表にあらわれない場合があり、こうした地震はいつ、どこで起こるか分からないため、今回は、君津市直下にマグニチュード6クラスの最大のマグニチュード6.9の地震を想定しました。図の青着色で示す君津市の全範囲で地震の発生を想定しています。

地域の危険度マップ (君津地区 1)



地域の危険度マップとは？
地域の危険度マップは、地震による揺れによって発生する建物被害の分布を、相対的に表したものです。具体的には「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れとなった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表しています。この「危険度」は50mメッシュ単位で分割した地域に建っている建物の中で、全壊する建物の割合により設定しています。危険度の数値が大きくなるほど地域の建物を受ける被害が大きくなります。

マップの利用方法
マップを見て、こんなことを考えてみてください。
○自宅のまわり、学校や職場のまわりの危険度はどのくらいなのか？
○自分の家、学校や職場の耐震性は十分か？
○大きな家具や家電製品の位置や就寝場所などにより家の中で危険な所はないか？